

令和7年度 北海道拓北養護学校 学校評価及び次年度に向けて

1 令和7年度学校評価アンケート結果

(1) 令和年度学校評価「保護者評価結果」

・総回答数		96件 (96/117 回収率82%)
内訳		小学部：45名 (82%) 中学部：37名 (88%) 高等部：14名 (70%)
No.	保護者評価項目	評価点合計の平均点 (昨年との比較)
1	「たくほくコンパス」(個別の教育支援計画、個別の指導計画)の作成・実施・評価にかかわり、担任あるいは学校から十分な説明を得ることができていますか。	3.8(-0.1)
2	学校は、学校便り(広報誌)、学年便り、校内掲示、ホームページやSNS、メール配信などで学校からの情報を十分に伝えることができていますか。	3.8(+0.1)
3	教職員は、お子さんに対し、人格に配慮した丁寧な対応や言語環境で接していますか。	3.9(+0.1)
4	教職員と保護者は、お互いを尊重し合い、協力し合うことができていますか。	3.8(±0)
5	各計画は、お子さんの学習ニーズに応じた目標設定になっていると思いますか。	3.9(+0.1)
6	学習では、お子さんの状況に応じた教材・教具・補助具、支援等の工夫がされていますか。	3.8(+0.1)
7	学習内容は、現在の生活や将来の自立につながる内容になっていると思いますか。	3.6(±0)
8	学校生活は、お子さんの状況を踏まえた健康安全指導(給食・摂食、医療的ケア含む)がされていますか。	3.6(-0.1)
9	学校は、防災、防犯について、危機管理意識をもち、災害発生時に対する備えを進めていますか。	3.5(±0)
10	学校は、事故やヒヤリハット、いじめ等の安全面の対応と再発防止への取り組みがなされていますか。	3.4(+0.1)
11	学校では、学校行事や寄宿舎行事の時期や内容は、適切に行われていると思いますか。	3.5(±0)
12	進路指導では、早期から保護者や関係機関と連携し、計画的な指導・支援がなされていますか。	3.6(+0.1)
13	本校のPTA活動は、参加しやすい内容・方法になっていますか。	3.2(-0.2)
14	「たくたく(地域活動プログラム)」や交流及び共同学習、地域学習などをはじめとする様々な活動を通して、地域とのつながりは深められていますか。	3.4

・回収率が82%でした。(前年度:43%)

・下記の項目で数件、「2 あまりできていない」「1 できていない 改善が必要」という評価をいただいています。

No.	「2 あまりできていない」「1 できていない 改善が必要」という評価があった項目
7	学習内容は、現在の生活や将来の自立につながる内容になっていると思いますか。 (「2 あまりできていない」:1件)
11	学校では、学校行事や寄宿舎行事の時期や内容は、適切に行われていると思いますか。 (「2 あまりできていない」:4件)
12	進路指導では、早期から保護者や関係機関と連携し、計画的な指導・支援がなされていますか。 (「2 あまりできていない」:1件)
13	本校のPTA活動は、参加しやすい内容・方法になっていますか。 (「2 あまりできていない」:4件)
14	「たくたく(地域活動プログラム)」や交流及び共同学習、地域学習などをはじめとする様々な活動を通して、地域とのつながりは深められていますか。 (「2 あまりできていない」:5件、「1 できていない 改善が必要」:1件)

(2) -1 令和7年度学校評価「職員評価結果」

令和7年度学校評価「教職員評価結果」		
小学部:41名、中学部:26名、高等部18名、寄宿舎12名、行政19名 合計:116名 116名/119名 回収率 97.5%		
		評価点合計平均点
1「未来を拓く」 ①「たくほくコンパス」を核とした教育課程改善と実態把握に基づく授業改善の推進	(1)人権意識(対児童生徒、対教職員)の向上を図り、信頼される学校経営が推進できた。	2.88(-0.12)
	(2)児童生徒一人一人の教育ニーズに応じた「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を基本とした根拠ある教育実践ができた	2.77(-0.24)
	(3)安全で安心な教育環境、危機管理体制の点検と整備ができた。	2.88(-0.06)
	(4)将来をより良く生きるために必要な知識、意欲や態度を育成できた。	2.80(-0.19)
	(5)発達段階、年齢に即した進路支援や進路学習の実施ができた。	●2.65(-0.26)
	(6)諸会義や業務内容の確認と精選ができた。	●2.59(-0.20)
	(7)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点による各指導計画の立案や授業実践、評価・改善ができた。	●2.60(-0.23)
	(8)地域の特色を生かした体験学習や地域資源(社会教育施設など)を利用した教育活動ができた。	●2.65(-0.06)
	(9)児童生徒の指導支援に関する基本的な考えや具体的な対応方法について、教職員間で共通理解を図りながら対応することができた。	2.95(—)
1「未来を拓く」の平均		2.75(±0)
2「自己を啓く」 ②安心安全な学校環境の改善と維持	(10)肢体不自由教育や重度重複教育などの専門性を高めることができた。	2.81(-0.16)
	(11)自立活動の指導の工夫と充実ができた。	●2.68(-0.32)
	(12)教育公務員としての役割と使命を自覚し、不祥事の防止、服務規律の保持ができた。	○3.42(-0.17)
	(13)医療的ケア実施体制を充実することができた。	○3.08(+0.09)
	(14)摂食指導に係る専門性を高めることができた。	●2.69(-0.28)
	(15)児童生徒の実態に応じた段階食の検討・推進ができた。	●2.63(±0)
(16)職員が協力し合い、業務の効率化を図ることができた。	2.83(—)	
2「自己を啓く」の平均		2.88(+0.06)
3「学校を開く」 ③地域活動プログラムを含む地域と連携した教育活動の推進。	(17)PTAや地域と連携した学校づくりができた。	2.93(+0.12)
	(18)家庭・地域と連携した防災体制強化に向けて危機管理体制の点検と整備ができた。	2.81(+0.07)
	(19)卒業後の生涯学習や、共生を見据えた交流及び共同学習ができた。	●2.50(-0.21)
	(20)地域の特別支援教育のセンター的機能が発揮できた。(教育相談、校外支援、情報提供等)	2.76(+0.03)
	(21)学校便りや学年通信、HPやSNS等を活用した情報発信ができた。	○3.16(-0.24)
	(22)ICT機器を効果的に活用した指導実践ができた。	2.96(-0.27)
	(23)業務推進に必要な情報(例:前年度の取り組み内容、反省内容など)が得られ、校務の効率化、ICT化が図られた	2.82(-0.15)
3「学校を開く」の平均		2.85(-0.01)

・平均評価が3.0以上のものに○、2.75以下のものに●をつけています。

(2)-2 その他

①本校教職員へのカリキュラムマネジメントに関するアンケート結果

番号	設問内容	4段階評価平均
(1)	授業時数の適正化について、各教科や自立活動の時数を見直したことで、日々の教育活動にどのくらい成果を感じますか？	2.93
(2)	超過した時数を解消したことで、各教科や自立活動における授業時間が少なくなりましたが、子どもの姿や授業づくりにどのくらい変容を感じますか？	●2.48
(3)	授業時数の適正化に伴い、下校時間を変更しましたが、下校後の時間が増えたことについて、どのくらい成果を感じますか？	2.81
(4)	放課後時間の活用について、会議枠の他に「授業づくり・分掌業務」の時間枠も設定しているがどのくらい活用ができていますと感じますか？	2.77
(5)	たくほくコンパスについて、個別の教育支援計画や個別の指導計画、学びの履歴シートなどを共有して、一元化システムを構築・運用したことに對して、どのくらい成果を感じますか？	○3.14
(6)	たくほくコンパスについて、校務DX化により、クラウド活用やスプレッドシートの利用を推進していることに對して、どのくらい成果を感じますか？	○3.12
(7)	たくほくコンパスについて、自立活動の流れ図や課題関連図を作成して、根拠のある指導の実践に對して、どのくらい成果を感じますか？	○3.01
(8)	たくほくコンパスについて、各教科の目標を指導内容とリンクすることで明確化したことに對して、どのくらい成果を感じますか？	2.99
(9)	個別の指導計画について、書式の変更に對して、どのくらい成果を感じますか？	○3.12

②上記アンケートにおける具体的な意見

番号・評価平均	寄せられた意見(要約)
(2) ●2.48	約3割(30%前後)が「授業準備・情報共有時間の確保」を成果として挙げた。放課後に振り返りや教材研究、生徒情報の共有ができるようになり、時間外勤務の縮小につながったとの意見がある。約4割(40%前後)が「会議・研修の増加により準備時間が確保できていない」と回答。放課後の時間は増えたが、その多くが会議や研修に充てられ、授業準備の実感が乏しいという声が目立つ。
(5) ○3.14	約4割(40%前後)が「一元化・見やすさ・共有のしやすさ」を成果として評価。情報が集約され探しやすい、目標が焦点化された、教科担当も評価に参加しやすいとの意見。約3割(30%前後)が「まだ不慣れ・移行期の負担増」を指摘。作成や入力に時間がかかる、1年目で評価が難しいなど、運用初年度特有の戸惑いが見られる。
(6) ○3.12	約4割(40%前後)が「ICT活用の広がり・利便性向上」を評価。同時編集、会議での即時活用、効率性や即時性を成果として挙げる声が多い。約3割(30%前後)が「操作への不安・習熟不足」を指摘。慣れるまでに時間がかかる、使いこなせていない、メリットをまだ実感できていないとの意見が見られた。
(7) ○3.01	約5割(50%前後)が「可視化・根拠の明確化」を成果として評価。課題や目標が整理され、思考の見える化が進んだ、手立てを考えやすくなった、6区分27項目から根拠をもって設定できる等の意見が多い。自立活動と教科の関連を考えやすくなったとの声もあった。約3~4割(35%前後)が「保護者説明への効果」を実感。流れ図により目的や将来像が伝わりやすい、説明しやすいとの評価がある。
(9) ○3.12	約5割(50%前後)が「簡略化・スリム化」を成果として評価。重点目標の廃止、入力項目の削減、重複評価の減少により業務負担が軽減したとの声が多い。引き継ぎや積み上げの把握がしやすくなった点も評価されている。約4割(40%前後)が「系統性・一貫性の向上」を実感。個別計画・自立活動・学びの履歴がリンクし、筋道が通った構成になった、根拠ある目標設定につながったとの意見が見られた。

3 各評価まとめ

(1)「保護者評価」より

- ①たくさんの保護者の皆様に御協力いただき、回収率が 82%と昨年より大幅に上昇した。アンケート提出のお願いについて、文書配布後も一斉メールで 2 回呼び掛けた成果と思われる。次年度以降も同様の対応を継続する。
- ②平均評価は3.2~3.9と高い評価であるが、「2 あまりできていない」「1 できていない 改善が必要」の評価をいただいた項目について改善が必要である。
- ③自由記述欄にいただいた御意見は多数寄せられたが、特に以下の内容が複数寄せられた。

ア 感謝・肯定の声が多い。

日頃の指導への感謝や子どもの成長を実感する声が多く、本校の教育活動への信頼がうかがえる内容が多数あった。

イ 判断材料不足による「わからない」回答が見られる。

参観日程が合わない、体調面の事情による欠席など、来校できなければ取組を十分把握しにくいとの意見があり、情報提供の工夫が課題である。

ウ 行事・参観の参加しにくさが指摘されている。

フルタイム勤務等により、参観日や PTA の会議など、午前中の参加が難しいとの声があり、実施時間等の配慮が求められる。

エ 地域交流の受け止めに差がある。

地域活動プログラムなどの意義を認める声がある一方、目的や効果が伝わりにくいとの指摘があり、取組の周知が課題である。

(2)「教職員評価」および「本校教職員へのカリキュラムマネジメントに関するアンケート結果」より

- ①今年度、学校評価提出の職員を非常勤看護師などまで拡大したが、項目によっては「わからない」という回答が増え、全体的に平均評価が低下した。→学校評価の方法について検討が必要。
- ②「自立活動の工夫」「摂食指導に関する専門性の向上」に関する評価が低かった。
- ③「会議の精選」の部分については評価が低かった。
- ④今年度から取り組み始めた「たくほくコンパス」（個別の教育支援計画、個別の指導計画、学びの履歴シートの一元化システム）は、運用上の課題はあるが、共有のしやすさや利便性、根拠の明確化などの理由で評価が高かった。

(3)学校運営協議会より（第2回学校運営協議会 12月4日 10:00～ 本校会議室）

- ①今年度から授業時間が減ったが、先生方の意識などに変化はあるのか知りたい。
- ②児童生徒の情報が、学部が変わると伝わっていない場合がある。進級時の引継ぎなど、児童生徒の記録を丁寧に残していくことが必要ではないか。
- ③授業時数の不足について、「自立活動など、もう少し時間があつたらできるのに」と感じている保護者もいるのではないか。
- ④「地域学習の目的は何か？」と思うことがある。地域学習の目的を、保護者と先生が共有できたらよいのではないか。

4 次年度に向けた主な改善の方向性

本校では、今年度のアンケート結果を踏まえ、教育活動のさらなる充実に向けて以下の取組を進めていく。

1 授業参観等への参加しやすさの向上

保護者から、参観日や PTA 会議の参加が難しい場合があるとの意見があった。そこで次年度は、参観日や PTA 会議の設定時間や実施方法の工夫、参観日以外でも授業参観が可能であることの一層の周知を進め、保護者が学校の教育活動をより見やすい環境づくりを行う。

2 地域活動プログラムの充実

今年度新たに実施した地域活動プログラムは、毎回 20 名程度の参加があり、参加者から概ね好評だった。一方で、参加者の広がりについての課題も指摘された。次年度は、近隣地域との連携の拡大、学生ボランティア等の参加促進を進め、児童生徒が多様な人と関わる機会の充実を図る。

3 カリキュラムマネジメントの充実

本校では今年度より、個別の教育支援計画・個別の指導計画・学びの履歴シートを一元化した「たくほくコンパス」を導入した。教職員からは、情報共有のしやすさや指導の一貫性の向上といった成果が報告されている。一方で、「活用にまだ慣れていない」との声もあった。次年度は、校内研修の充実、校内研究との連動強化、指導の系統性・一貫性のさらなる向上に取り組み、効果的なカリキュラムマネジメントを推進する。

■カリキュラムマネジメント

教育活動を学校全体で見直し、よりよい学びにつなげていく仕組みである。

具体的には、①子どもの実態を把握する、②目標を明確にする、③授業や活動を計画する、④成果を振り返る、⑤必要に応じて改善する、という流れで、学習内容の改善・充実を図る。

4 自立活動の充実について

反省の中で「自立活動の時間が短くなったのではないか」との意見があった。特別支援学校における自立活動は、自立活動の時間だけでなく、教育活動全体を通して行うものである。本校では次年度、自立活動の目標を導き出すための「課題関連図」の充実に向けた研修、「自立活動（摂食指導）年間指導計画」の整備、各教科等との関連付けの強化を進め、学校生活全体を通じた自立活動の一層の充実を図る。

5 引継ぎ体制の強化

「進級時の引継ぎが十分でない場合がある」との指摘があった。次年度は、年度末・年度初めの引継ぎ方法の見直し、学部内での情報共有の強化を行い、児童生徒一人一人の理解が継続的に深まる体制づくりを進める。

6 地域学習のねらいの共有

地域学習の意義やねらいについて、保護者との共有をさらに充実させてほしいとの意見があった。次年度は、地域学習のねらいの事前共有、相手校・関係機関との目的の明確化を行い、学習効果がより実感できる取組を進める。